

## 精神科病棟から認知症治療病棟への転換における

### 精神科看護師の気がかり

～半構造化インタビューを通して明らかになったこと～

澤村のりこ<sup>1)</sup> 石破久美<sup>1)</sup> 永美佑太<sup>1)</sup> 伊田絵理香<sup>1)</sup> 福田久美江<sup>1)</sup>  
藤木悦子<sup>1)\*</sup> 高間さとみ<sup>2)</sup>

1) 国立病院機構鳥取医療センター7病棟

2) 鳥取大学医学部保健学科看護学 地域・精神看護学講座

## Psychiatric nurses' concerns over the reorganization of their psychiatric ward as a dementia care ward

- A semi-structured interview-based study -

Noriko Sawamura<sup>1)</sup>, Kumi Ishiba<sup>1)</sup>, Yuhta Nagami<sup>1)</sup>, Erika Ida<sup>1)</sup>, Kumie Fukuda<sup>1)</sup>,  
Etsuko Fujiki<sup>1)\*</sup>, Satomi Takama<sup>2)</sup>

1) The 7th Ward, Department of Nursing, NHO Tottori Medical Center

2) Department of Nursing Care Environment and Mental Health, School of Health Sciences,  
Tottori University Faculty of Medicine

\*Correspondence: byoutou10@tottori-iryō.hosp.go.jp

### 要旨

一般的に、病棟を新規に開設する、または他科へ転換するための作業は大変な労力を必要とする。A病棟は、平成28年6月30日から認知症治療病棟として転換することが決まった。その発表の際、病棟看護師からは否定的発言が多く聞かれた。看護師は何を心配し、「気がかり」に感じていたのかを、インタビューにより明らかにすることで、新しい病棟へ転換するときに検討が必要なことについて、示唆が得られるのではないかと考え、本研究に取り組んだ。インタビュー結果から、精神科病棟から認知症治療病棟へ転換時の精神科看護師の「気がかり」として、4つのカテゴリーが抽出された。それは、混在し多様化した不安、準備期間が短いことへの懸念、身近な出来事による認知症へのマイナスイメージ、精神科看護への未練の4つであった。鳥取臨床科学 9(2), 97-102, 2017

### Abstract

Newly organizing or reorganizing wards generally requires considerable time and labor. The study ward was determined to restart as a dementia care ward from June 30, 2016. When notified of this, a large number of ward nurses made negative statements. This study examined their concerns over the reorganization of their psychiatric

ward as a dementia care ward through interviews, with the aim of obtaining useful findings for newly organizing or reorganizing wards in other similar cases. Through semi-structured interviews, 4 categories representing the ward nurses' concerns, [anxiety about diverse and intermixed problems], [concerns over an insufficient preparatory period], [a negative impression of dementia due to the nurses' own experience], and [attachment to psychiatric nursing], were extracted. Tottori J. Clin. Res. 9(2), 97-102, 2017

**Key words:** 精神科病棟, 精神科看護師, 認知症治療病棟への転換, 看護師の気がかり, 半構造化インタビュー; psychiatric wards, psychiatric nurses, reorganization as a dementia care ward, nurses' concerns, semi-structured interviews

## はじめに

我が国における認知症の人の数は、2012年(平成24年)で約462万人であり、65歳以上の高齢者の約7人に1人と推計されている。この数は、高齢化の進展に伴いさらに増加が見込まれており、2025年(平成37年)には認知症の人は約700万人前後になり、65歳以上の高齢者に対する割合は、現状の約7人に1人から約5人に1人に上昇する見込みとの結果が明らかとなっている<sup>1)</sup>。この状況から、全国的に、高齢者及び認知症の人が入所する施設も増加している。

本年度はじめ、A病棟は、行動・心理症状(以下BPSDとする)のある認知症患者に薬物療法と非薬物療法を行い、症状改善を図り、住み慣れた場所で引続き生活ができるように支援することを目的とし、認知症治療病棟として転換することが決まった。この発表があった時、看護師の反応は、「嫌だ」、「精神科の看護がしたいのに」等、否定的な発言が多く聞かれた。看護師の反応に疑問を感じ、精神科の看護師が抱く認知症のイメージには、偏見や先入観、知識不足が原因になっているものが、少なからずあるのではないかと考えた。

そこで、A病棟が認知症治療病棟になると知った時の気持ちや認知症についての思いをインタビューしたところ、「気がかり」についての発言が多く聞かれた。精神科病棟から認知症治療病棟へ転換時に精神科看護師が気がかりに感じていることを、インタビューにより明らかにすることで、新しい病棟に転換する際に考慮する

視点について示唆が得られるのではないかと考え、本研究を行った。

## 用語の定義

本研究では、「認知症」とは、認知症、認知症患者、認知症治療病棟を含む。

「気がかり」とは、気になって心配すること、心にひっかかるものや事柄を指す。

## I. 研究目的

精神科病棟から認知症治療病棟への転換における精神科看護師の「気がかり」について、明らかにすることを目的とする。

## II. 研究方法

### 1. 研究期間

平成28年7月から5ヶ月間。

### 2. 研究対象者

B病院A病棟の看護師で、精神科病棟勤務を3年以上経験した看護師8名。

### 3. データ収集

インタビューガイドを使用し、1人30分以内の半構造化面接を行い録音した。本研究での認知症の定義を説明し、①A病棟が認知症治療病棟になると知った時の気持ち、②心配や不安に思っていること、③認知症について苦手な事・好きな事について、自由に語ってもらった。

### 4. 分析方法

インタビュー内容から、看護師の「気がかり」に着目して分析を行った。録音したインタビュ